

トークセッション概要

テーマ：「都市の里海」について

大阪湾及びその他の地域で、様々な困難さに対して熱意とアイデアをもって取り組んでこられた方々のご経験をもとに、「都市の里海」ならではの困難さと同時に面白さや可能性についてアイデアを交換しました。

発話者：●コーディネーター ○パネリスト □他

○大阪府

「大阪湾 MOBA リンク構想」という大きな構想を掲げたことの重みを実感しました。課題は数多くありますが、何より大切なのは、諦めずに取組を続けていくことだと思っています。行政としても、多くの情報や人とのつながりを活かしながら、さまざまな主体との連携を進めていきたいと考えています。都市部では、海と人との間に物理的な距離や障壁がありますが、仕組みづくりや沿岸部の企業とのコミュニケーションを深めるなど、人とのつながりを広げていくことが大きなポイントになると考えています。

●岩井氏→○正垣氏

これまでの活動の中で、もう少しうまくやればよかったことをお聞かせください。

○正垣氏

無関心層をどう巻き込んでいくかはずっと課題にしています。環境に関心のある人には話が伝わりやすい一方で、関心のない人たちへ広げていくことの難しさを感じています。ただ、大阪は何か発信すれば、興味を持ってくれる人がいます。例えば、百貨店で開催したウニのランプづくりは、平日にもかかわらず2回とも満席になりました。

●岩井氏→○川崎氏

取組をされる中での不安や今後の方向性をお聞かせください。

○川崎氏

うまくいったり、いかなかったりするので、今後の事業継続について不安はあります。今後は、結果に一喜一憂せず、最終的な目標を明確にして、事業継続の合意を得ようと思います。

○竹内氏（活動紹介）

千葉県館山市の沖ノ島で実施されている取組について、森の再生と海とのつながりに触れながらご紹介いただいた。

●岩井氏→□会場参加者

大阪ならではの取組のアイデアをお聞かせください。

□会場参加者

大阪での取組事例として、淀川河口の干潟での石干見（魚垣）づくりをご紹介いただいた。

○大阪府

今年度は、さまざまな企業・業界が大阪湾奥部の藻場創出へ参入を支援するための取組を進めるとともに、環境省と協働して、都市部における里海づくりに挑戦します。簡単ではありませんが、多くの方の関心を集めながら、ぜひ皆さまと一緒に取り組んでいければと思います。